



一般社団法人 中部地質調査業協会
理事長 小島 央彦

巻頭言

平素は、一般社団法人中部地質調査業協会の事業活動に多大なご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。協会員一同、心より御礼申し上げます。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが5類感染症に引き下げられたことで、行政からの要請や制限がほとんど撤廃され、個人の選択を尊重した対応に変わりました。感染対策は自主的な取り組みが基本となり、外出自粛の求められない社会へ移行しました。協会行事につきましては、制限していた各種講習会や意見交換会が対面開催となり、急激に変化する対人関係の距離感に戸惑いもありますが、より良い協会活動に向けて継続してまいります。

7月に改訂された国土強靱化基本計画は、地質調査業に大きな影響を与える可能性があります。基本計画では、「地質情報の整備や活用の推進」、「脆弱性評価の実施や結果の公表を義務付けること」および「国土強靱化のための事業規模を大幅に拡大すること」が重要なポイントです。これらにより、地質調査業は地質情報の収集や分析、提供などに関する需要がますます高まると考えられます。一方で、地質調査業は、脆弱性評価に関する専門性や技術力を高める必要がありますし、国土強靱化に関する様々な事業に参画する機会が増えると同時に、事業の品質や安全性を確保するための厳しい基準や管理も求められます。

以上のように、国土強靱化基本計画の改訂は、地質調査業にとってチャンスと課題の両面を持つものですが、基本計画の内容を十分に理解し、国土強靱化の取り組みに積極的に貢献していきたいと考えています。

新たな取り組みという事で言えば、10月には、上部団体にあたる一般社団法人全国地質調査業協会連合会(以下「全地連」という)にて「新たな時代の地質調査業 アクションプラン2023～社会に寄りそう地質調査業～」(以下「アクションプラン」という)が公表されました。全地連では創立60周年を迎えるにあたり、令和3年12月に公表した「新たな時代の地質調査業発展ビジョン～2020年

代を駆け抜けるための地質調査業の羅針盤～」(以下「将来ビジョン」という)を踏まえつつ、今後業界として活動すべき事柄について、新たに「アクションプラン」を公表しました。



アクションプラン2023

(https://www.zenchiren.or.jp/geocenter/pdf/60th_pamphlet.pdf):QRコード

全地連の将来ビジョンやアクションプランを利用しながら、これまでと同様に全地連の活動と連携しながら地質調査業の社会的地位の向上を目指して活動していく所存です。

本機関誌「土と岩」72号は、特集タイトルを「資格の取得と活用について」として地質調査業における資格取得の取り組み状況をご紹介します。中部地方整備局との意見交換会や中部ミニフォーラム2023での優秀論文賞の紹介など、その多岐にわたる内容は、協会内外の皆様にお目届けいただき、啓蒙活動の一助となることを期待しています。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震は、石川県能登地方で最大震度7を観測するなど甚大な被害をもたらしました。この地震では、能登半島北部で最大約4mの隆起が生じ、海底活断層の存在が指摘されています。地質調査業は、このような地震による地盤変動や活断層の特徴を調査し、防災や土地利用計画に貢献してまいります。

結びになりますが、皆様が安全・安心に暮らせる国土形成のために、専門家集団として重要な役割を担い、これまで培ってきた技術を次の世代に承継してまいりますので、今後ともより一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

01 ▶	巻頭言	1
02 ▶	特集 資格の取得と活用について	3
	1) 【技術士】土質及び基礎	4
	□(株)岐阜ソイルコンサルタント 設計部 高井 弘志	
	2) 【技術士】応用理学部門(地質)	6
	□大日本ダイヤコンサルタント株式会社 中部支社 技術第2部 地質防災室 田中 昭好	
	3) 【技術士】応用理学部門(地球物理及び地球化学)	8
	□大日本ダイヤコンサルタント株式会社 地質解析事業部 物性評価部 物理探査室 浅川 真也	
	4) 【技術士】建設環境	10
	□応用地質株式会社 嶋本 直人	
	5) 【地質調査技士】	12
	□東建ジオテック株式会社 名古屋支店 営業部 課長補佐 京井 進悟	
	6) 【土壌汚染調査技術管理者】	14
	応用地質株式会社 小田 遼	
	7) 【地盤品質判定士】	16
	(一社)地盤品質判定士会 中部支部長(応用地質株式会社) 千野 克浩	
	8) 【応用地形判読士】	18
	大日本ダイヤコンサルタント株式会社 地質解析事業部 新山 雅憲	
	9) 資格取得まとめ	20
	(一社)中部地質調査業協会 副理事長 深井 晴夫	
03 ▶	特別寄稿	21
	山岳トンネル建設工事における地下水環境影響評価	
	□大東地盤環境研究所 所長 大東 憲二	
04 ▶	令和5年度	38
	中部地区における地質調査業に関する意見交換会	
05 ▶	中部ミニフォーラム2023優秀論文	45
	1) 細粒分含有率の異なる試料に対する一軸圧縮試験と UU三軸圧縮試験の適用性に関する研究	
	□中部土質試験協同組合 ○松本 勝己 石原 聖子 法安 章二	
	2) 落石調査(特に山岳地の地表踏査)の位置精度を向上するための取り組み	
	□株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング ○田中 龍哉 広瀬 義純	
06 ▶	令和5年度 現場研修会	51
	1) □基礎地盤コンサルタンツ株式会社 中部支社 金島 亮次	
	2) □東邦地水株式会社 技術本部三重技術部 中江 あすか	
07 ▶	散文 中部地区の博物館・資料館の紹介	56
	□三重総合博物館 学芸員 津村 善博	
08 ▶	常設委員会報告	72
	・総務委員会 ・研修委員会 ・女性活躍推進ワーキング活動	
	・広報委員会 ・技術委員会 ・防災委員会	
	・編集委員会 ・ホームページワーキング活動報告	
09 ▶	県支部活動報告	84
	・愛知県 ・岐阜県 ・三重県 ・静岡県	
10 ▶	読者アンケート結果・読者アンケート	88
11 ▶	会員名簿	90
12 ▶	会員広告	92
13 ▶	編集後記	100